

まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 30 年 11 月 12 日（月） 18：30～20：44

場 所：総合福祉センター「しゃるる」

出席者：16 人

1. 開会
2. 町長挨拶
※資料確認
3. 説明事項
(1) 栗山町第 6 次総合計画後期実施計画策定について（資料①・②）
※質疑応答
4. 懇談
(1) 栗山町が直面する主な課題について（資料③）
※自由懇談・質疑応答
5. 閉会

《懇談会内容》

質疑：道の駅をつくるのか。

町長：後期計画では構想にとどめているが、国道 2 3 4 号の拡幅や栗山公園なども含め検討していく。

意見：駅前通りに食堂が必要では。

町長：商店街や地元の方々と、駅前商店街の活性化の議論を進めているところである。必要なものの中に、ホテルなど出ている。

意見：御大師山の展望デッキ整備や観察飼育舎の移設、ファールブルの森の整備もある。道の駅の議論も間を開けずに進めてほしい。

町長：鋭意検討を進めたい。

質疑：日赤に関して、今回の震度 5 弱の地震の被害はあったのか？

福祉課：建物の被害はないと聞いている。

意見：介護福祉学校の話もあるが、20 年前にハイテクノロジー専門学校の誘致をやめて良かったと感じている。

質疑：日赤の本社としての、耐震に対するスタンスは。

町長：日赤は病院も本社も含め、耐震改修、補強ではなく、改築の意向である。しかしながら、町としては、耐震補強の場合はどうなのかというところも検討していく。

質疑：栗山町スキー場の存続・廃止の関係で、小中学校でのスキー授業の対応の話があったが、高校や団体との話は、どのあたりまで進めているのか。

教育長：高校は、他のスキー場までの、移動に係る経費の話が出ている。スキー連盟は、どのような協力が仰げるのか団体と協議していきたい。

意見：スキー連盟とは具体的な話はしていないということか。講習会、大会、検定などをやって

いくのかどうかということを知りたかった。

教育長：長沼のスキー場を借りてやるということになれば、長沼の関係者とも十分な調整が必要となってくるので、その辺を連盟にも整理をお願いしているところである。

質疑：栗山高校の問題で、栗山の子どもたちが小学校区で栗山高校に進学するような道の働きかけはないのか。

教育長：平成17年に学区が空知北と空知南に分かれ岩見沢が空知南となって以来、岩見沢へ進学する傾向となった。道教委としては、少子化で、高等教育に対応するためには、ある程度の生徒数を確保できる学校規模を維持しなければという考えがある。それと、町村の地元学校存続の想いがある。子どもたちに地元の高校、あるいは近隣の子どもが栗山高校を選ぶような学校の魅力づくりを進めていく。栗山高校にとって一番良いと思えるアドバイスが出るような町民委員会を進めたい。

意見：1点目は6次総合計画で、いろいろ苦労されたと思うが、あれもやるこれもやるということになって、基金が5億円しかない。何をやるのか何をやめるのかということを進めるべきと思う。福祉の高専化は、素晴らしいと思う。介護福祉学校の運営が8年間で8億円、地域医療に6億円となるとこの費用のかけかたに納得できない。介護と外国人の活用で、東川町でも進めている。ごみ処理手数料の見直しや火葬手数料などの受益者負担も見直しが必要と思う。2点目は外国人に、まちで3年なり5年なり働いてもらうというような産業として成り立つ循環となる、弟子屈町のような仕組みが必要ではないか。

町長：1点目について、重要なことは二つあると思っており、一つは、人口減少対策に立ち向かう施策、57の公約一つひとつにその可能性を込めている。もう一つは、やめるもの・大鉈を振るう決断である。プラスする部分とマイナスの部分が必要と考えている。外国人技能実習に関しては、ベトナム人の受け入れを予定しているが、国際貢献事業なので、慎重に考える必要もある。2点目については、そのようなことも技能実習の受入推進には必要と思う。